

精选

大贯喜也诗集

「日本」大貫喜也◎著

罗兴典译

译林出版社 凤凰出版传媒集团



精选大贯喜也 诗集

[日本]大贯喜也◎著
罗兴典 译

4

凤凰出版传媒集团 译林出版社

图书在版编目(CIP)数据

精选大贯喜也诗集 / (日) 大贯喜也著; 罗兴典译.

南京: 译林出版社, 2009.8

ISBN 978-7-5447-0984-2

I. 精… II. ①大… ②罗… III. 诗歌-作品集-日本-
现代 IV. I313.25

中国版本图书馆CIP数据核字 (2009) 第130078号

Copyright © Thomas A. Szlezák

Published by arrangement with Janklow & Nesbit Associates through Bardón-Chinese
Media Agency

Simplified Chinese translation copyright © 2005 by Yilin Press

All rights reserved including the rights of reproduction in whole or in part in any form.

著作权合同登记号 图字:10-XX-XX 号

书 名 精选大贯喜也诗集
作 者 [日本]大贯喜也
译 者 罗兴典
责任编辑 叶宗敏
出版发行 凤凰出版传媒集团
译林出版社(南京市湖南路1号 210009)
电子信箱 yilin@yilin.com
网 址 <http://www.yilin.com>
集团网址 凤凰出版传媒网 <http://www.ppm.cn>
印 刷 南京爱德印刷有限公司
开 本 880×1230 毫米 1/32
印 张 4.75
插 页 4
版 次 2009年8月第1版 2009年8月第1次印刷
书 号 ISBN 978-7-5447-0984-2
定 价 18.00 元

译林版图书若有印装错误可向承印厂调换



大貫喜也近影
(北海道新聞社提供)



1999年10月下旬、メキシコのアカプルコ市で開催された第19回世界詩人会議で自作詩を朗読する著者。

1999年10月下旬、在墨西哥阿卡普尔科市召开的第19届世界诗人大会上，诗人在朗诵自己的诗作。



2003年11月下旬、中国台湾の台北市で行われた第23回世界詩人会議で自作詩を朗読する大貫喜也。

2003年11月下旬、在中国台湾台北市举行的第23届世界诗人大会上朗诵自己诗作的大贯喜也。



2002 年 11 月 11 日,北海道新聞文学賞(詩部門)を受ける大貫喜也。

2002 年 11 月 11 日,大貫喜也获北海道新闻文学奖(诗歌类)。



2005 年 8 月 7 日,米国・ロサゼルス市での第 25 回世界詩人会議の閉会式でモハン会長から名誉文学博士の称号を授与された大貫喜也。

2005 年 8 月 7 日,在美国洛杉矶市召开的第 25 届世界诗人大会的闭幕式上,大貫喜也由谟罕主席授予名誉文学博士称号。

自序

大貫喜也

この度、私の詩選集が中国の訳林出版社から上梓されることになり、大変嬉しいことです。お世話下さるのは大連外国語学院の羅興典教授で、羅先生は「日本詩史」(上海外語教育出版社)を始め日本の現代詩壇や個人の詩選集について多数の著書や翻訳書がある学界随一のお方で、羅先生の翻訳ならお任せできるという安堵感があります。

一九九四年四月、羅先生は北海学園大大学院千葉宣一教授研究室での日本現代詩研究に、奥様の蘇桂荃教授は教授の交流で北星学園大学へと共に札幌にお出でなさいました。羅先生は当時私が事務局長だった北海道詩人協会(原子修会長)の行事にもお顔を出されていたので親しくなり、私の家族三人が札幌のご自宅を訪問して、ご手製の水餃子をご馳走になったこともあります。そして中国にお帰りになられてからは、私の詩作品を中国語に翻訳されて、「訳林」、「日語学習与研究」、「外国文芸」、「日語知識」などの文芸誌に掲載して下さっていました。

特にこの度は、作品集としての体裁を整えるために、翻訳を三十九編にまで増やしていただき、深く感謝しております。

私は詩を書き始めてから半世紀以上になりますので、この際、自分の生い立ち、そして詩を書くようになった動機を振り返ってみたいと思います。私は一九二六年、山形県尾花沢市の片田舎、奥羽山脈の山里の地主の家の次男として出

自序

大贯喜也

此次,我的诗选得以由中国的译林出版社出版,这是令我非常高兴的事情。承蒙译介的是大连外国语学院

3

的罗兴典教授。罗先生以《日本诗史》为首,就日本现代诗坛和诗人出版过多种著作和选集,是学界的佼佼者,能够委托罗先生翻译,我感到很放心。

1994年4月,罗先生在北海学园大学大学院千叶宣一教授的研究室从事日本现代诗研究,夫人苏桂荃作为交流教授来到北星学园大学任教。我在札幌有幸见到了他俩。罗先生还经常出席当时由我担任秘书长的北海道诗人协会(会长原子修)的活动,由此而亲近起来。我的一家三口人,还曾到札幌市的住所登门拜访,罗先生请我们吃他亲手包的饺子。在他们回到中国后,我的诗作便不断由罗先生译成汉语,先后在《译林》、《外国文艺》、《日语学习与研究》、《日语知识》等期刊发表。特别这次为了编译我的一本诗选,使译作增加到38篇,我深深为之感谢。

我开始写诗,算来已在半个世纪以上。借此机会,我想回顾一下我的生平以及写诗的动机。我于1926年出生于山形县尾花泽市乡下奥羽山脉山村的一个地主家,排行老二。可是,由于人际交往而染上酒癖的父亲,三十多岁就因病倒下,长年自宅疗养,结果在我9岁时

生。でも、人付き合いで酒に溺れた父は三十代で病にたおれ、長年自宅療養の果てに私が九歳の時に死亡。住み込みの使用人が五人もいるという煩雑な環境の故か、母も病身で男子四人の育児を果たせず、翌年三十五歳で父の跡を追うように亡くなった。そして叔父夫婦が後見役として子供四人を連れて同居するようになったものの、母を失った私の寂しさは癒されることはなく、隣近所で母親とその息子が仲良くしているのを見かけると、嫉妬心を募らせ、私にもせめて母親だけでも、居てくれたらなあとも思っていた。唯一の慰みは青森県の叔父が毎月送ってくれる雑誌を持ち、母屋つづきの蔵の二階に上がり、鉄格子の明かり取りの下で独り読書にふけることだった。

私の運命が狂い始めたのは、高等小学校二年生の時だった。当時、旧満州国の建設を国策としていた日本の行政が「五族共和」と称して、小学校の体育館でも満州国での開拓事業を映写し、大人ばかりでなく子供たちへの宣伝も行われていた。そして高等小学校では、二階への階段の踊り場でぱったり出会った剣道の教師から、私が両親を亡くして風変わりな様子だったせいか、「お前みたいな奴は満州へ行け!」と言われ、すっかりその気になり、一九四一年三月、まだ十四歳だったが、卒業式の日を待たずに、村の神社で出征兵士なみにお抜いを受け、県会議事堂での壮行式を経て茨城県の内原訓練所に入所した。

男子だけで郷土中隊を編成し、二カ月の団体訓練のあと、下関港から玄界灘を超えて釜山に上陸した。更に朝鮮半島を汽車で縦断し、現在の丹東から瀋陽、長春、哈爾濱、牡丹江と一週間かけて国境の町綏芬河に近い、河東駅と紫陽駅の中間に位置する満蒙開拓少年義勇隊訓練所に入所した。そこは前方が河で後背が山の裾野のような地形で付近に民家もなかったため、外部とのいざこざはなかった。ここでの思い

就死去。也许是因为家里住着5个用人,不堪如此烦杂的环境,母亲也终于患病,没有完成养育4个儿子的任务,翌年35岁时便追随父亲而故去。后来,由叔父夫妻充当监护人,带着我兄弟4人共同生活。虽然如此,却不能驱散我失去母亲的孤寂。每当看到邻居的母亲和孩子亲密相处时,便引起我的嫉妒。我甚至经常想哪怕只和母亲生活也比现在好。唯一的慰藉是拿着叔父每月从青森县寄来的杂志,爬到邻接主屋的仓库二楼,在铁窗格子透进的光线下,独自一心读书。

我的命运开始失常,那是高等小学二年级时的事。那时,以建设伪满洲国为国策的日本当局,号称“五族共和”,在小学校的体育馆内也放映“满洲国开拓事业”的宣传片,受宣传的不仅是大人也包括孩子。后来,在高等小学通向二楼的楼梯平台处,突然遇到教剑道的教师,他看到我那副丧了父母而与众不同的样子,就粗声粗气地说:

“像你这样的家伙,去满洲吧!”从此,我老把它放在心上。1941年3月,我虽然只有14岁,还等不到毕业的那一天,就在村里的神社前,受到了与出征兵士相同的“洗礼”,又经在县议会大厅举行的送行式,随后编入茨城县的内原训练所。

只由男人编成的乡土连队,在经过两个月的团体训练之后,便由下关港越玄界滩在釜山登陆。接着乘火车纵向穿过朝鲜半岛,经由现在的丹东、沈阳、长春、哈尔滨、牡丹江,花了一周的时间,到达国境小镇绥芬河附近,被编入位于河东驿和紫阳驿之间的“满蒙开拓少年义勇队”训练所。那里的地形前面有河、后背靠着山村,因附近没有民房,也就没有和外界的纠纷。以在这

出をもとに作った作品には、「歩哨」と「野火の記憶」などがある。

ここでの三カ年の共同生活を終えて移行した先は、西部の現地住民から買収した既耕地への入植で、真の意味での開拓でない事がはっきりしたが、私たちは年端も行かぬ少年集団のこと、成り行きに従うしかなかった。この頃ソ満国境では、ソ連軍が兵員を増強し風雲急を告げていたので、開拓団に移行したばかりの私たちは年齢を繰り下げて根こそぎ関東軍に徴兵され、兵営で二カ月間の新兵訓練の後、私は黒河省孫呉の山中の地下兵舎に通信兵として配属になった。そして間もなく終戦となったが、私たちは無抵抗のままソ連軍の捕虜となった。その時の作品は「たこつぼ」、「降伏」、「廃墟」などに見られる。

ソ連の収容所での二年目の晩秋、寒さと飢えで病気になる、他の二人の病人とトラックの荷台で病院に運ばれ何の手当てもないまま廊下のベッドに臥せていたが、若さのせいか自然に治癒し、退院後は軽作業隊に回された。二年後にナホトカ港より引き揚げ船で日本へ帰国。実家に戻り一年ほど家業を手伝っていたが、両親が居ないという寂しさは払拭できず、この時「母在りせば」という題の詩を初めて書いたように思う。実家からの独立を目指し、新聞紙上の求人広告に応じて上京した。そして丸ノ内警察署に二年間勤めたが、教養不足、そして文学にも目覚めて退職し、同僚の勧めもあって島崎藤村の出身校である明治学院大学に入学した。この頃から詩を書き始めて、大学二年の時、品川駅から学生寮に帰ろうとしてたまたま乗り合わせた電車の中で、「日本未来派」という詩誌の主宰をしておられた上林猷夫氏と知り合い、シベリアでの抑留生活を話したところ、作品として書くことを勧められ、大学四年生の七月に出版にこぎつけた。大学卒業の年は戦後ずっと上向きだった景気

里的回忆为素材创作的诗篇,有《放哨》、《野火的记忆》等。

在这里结束了3年的集体生活,下一个转移目标,是迁入从西部当地居民买下的既耕地。虽然很清楚这不是真正意义上的开拓,但因我们是年幼的少年集体,唯有顺应事态发展。当时在苏满边境,苏军兵力增强,形势告急,我们这些刚转入开拓团的少年,被降低年龄全部由关东军征兵。在军营里经两个月的新兵训练后,我被编入黑河省孙吴的山中地下营房,当了一名通信兵。随后不久就停战了,我们也就乖乖地成了苏军的俘虏。反映那段时间的诗作,有《章鱼罐》、《投降》、《废墟》等。

在苏军收容所的第二年晚秋,我由于饥寒而患病,和另外两个病人由大卡车送到了医院,什么治疗也没有,一直卧在走廊的病床上,也许是年纪小的关系吧,却自然地好了。出院后,又回到了轻体力劳动队。两年后,由纳霍德卡港乘遣返船回到了日本。在老家帮助操持了一年左右的家业,但因双亲已故,不能抹去我的孤寂,那时还写了一首题为“要是母亲还在”的诗。因想离开老家求独立,看到报纸上的求职广告便来到东京,并在丸之内警察署干了两年警察,后因教养不足加之对文学的觉醒而辞职,受同事的劝导,进入诗人岛崎藤村的母校明治学院大学。从这时候起我开始写诗。大学二年级时,我要从品川车站回学生宿舍去,偶尔,在同乘的电车里,认识了诗刊《日本未来派》的主编上林猷夫,谈起在西伯利亚的扣留生活时,他劝我把它写成诗作。这部诗作终于在大学四年级时得以出版。大学毕业那年,正值战后一直上升的日本经济逆转,社会就业不容

が変動し就職難だったが、遠方からの採用通知の朗報に、渡りに船とばかりに北海道紋別市で教員となり、詩誌「青芽（富田正一主宰）」や「北海詩人（浅野明信主宰）」の同人として詩作を続けたが、何度か転勤を経て現住所に落ち着いてからは、「核（河邨文一郎主宰）」に永年所属していたが、河邨先生がお亡くなりになって詩誌が廃刊になったので、現在は東京の月刊詩誌「詩と思想」や「現代詩手帖」に載せてもらっています。

著書 一九五四年「黒龍江付近」、一九六三年「眼・アングル」（第一回北海道詩人協会賞受賞）、一九七七年「幽愁原野」（日本図書館協会選定図書）、一九八六年「小銃と花」、二〇〇二年「黄砂蘇生」（第三十六回北海道新聞文学賞受賞、北広島市文学賞受賞）など九冊。この外、二〇〇四年に英・仏語対訳詩集「THE COSMOS」、二〇〇五年に「英・スペイン語対訳詩集「E I COSMOS」」など。

所属 日本現代詩人会、日本詩人クラブ、日本文芸家協会各会員。北海道詩人協会理事、世界環境文学協会理事、世界芸術文化アカデミー会員（名誉文学博士の称号を取得）など。

易,而我却接到了来自远方的录用通知的喜报,接着就急急上任,很快成了北海道纹别市的教师。这期间,我作为诗刊《青芽》(富田正一主编)以及《北海诗人》(浅野明信主编)的同人继续写诗,并经过好几次调动最后来到现住所落脚,从而长年归属于河村文一郎主编的《核》。河村先生仙逝后,诗刊《核》停刊,现在东京公开发行的两个诗歌月刊《诗与思想》、《现代诗手帖》上发表诗作。

·主要诗集一览·

《黑龙江附近》(1954)

《眼·角度》(1963,获第一届北海道诗人协会奖)

《幽愁原野》(1977,日本图书馆协会选定图书)

《步枪和花朵》(1986)

《黄沙苏醒》(2002,获第36届北海道新闻文学奖,北广岛市文化奖)等9部。

此外,在国际上出版的诗集有:

《THE COSMOS》(宇宙,2004,英法对译)

《EI COSMOS》(宇宙,2005,英西[班牙]对译)等。

·现在所属·

日本现代诗人协会、日本诗人俱乐部、日本文艺家协会等会会员。北海道诗人协会理事,世界环境文学协会理事,世界艺术文化研究院会员(获名誉文学博士称号)等。

精选大贯喜也诗集 | 目次 |

自序 大贯喜也 2

第一章 野火の記憶 / 野火的记忆

- 八月 / 八月 2
歩哨 / 放哨 6
たこつぼ / “章鱼罐” 8
降伏 / 投降 10
銃器 / 枪械 14
廃墟 / 废墟 16
さくら / 櫻花 20
渇き / 渴求 22
少年と鳩 / 少年与鸽子 26
声 / 声音 28
野火の記憶 / 野火的记忆 30

第二章 北海道景物礼賛 / 北海道景物礼赞

- 詩の街 / 诗之街 36
二度と戻らないあなたへ / 献给一去不复返的你 38
朱の道 / 朱红的花道 42
星座 / 星座 46
鳥たち / 鸟儿们 50
こんな日には / 这样的一天 54
白樺 / 白桦 56
五月の小さな鐘 / 五月的小钟 60
白い花 / 致白旋花 62
赤い花 / 致红蔷薇 64
アカシア / 槐花 66

精选大贯喜也诗集 | 目次 |

YOSAKOIソーラン祭り / 约莎可依渔歌节 70

晩秋の遁走曲 / 晩秋遁走曲 72

サロベツ原野 / 萨洛贝茨原野 76

札幌の冬 / 札幌的冬天 80

第三章 人生の旅 / 人生之旅

人生とは / 何谓人生 86

生きる / 生活 88

失せもの / 失物 92

狼少年 / 狼少年 94

模写 / 仿制 98

こぶし(辛夷) / 致辛夷 102

座標 / 坐标 106

天と地と羊の里 / 天和地、羊之乡 110

第四章 世界はいま / 当今世界

世界はいま / 当今世界 114

成り果てる / 没落 116

日に何度も / 每天几度被杀 118

負の遺産 / 负的遗产 122

コスモス(宇宙) / 我在宇宙欢迎你们 124

・解説・

诗人大贯喜也的世界 罗兴典 128

第一章

野火の記憶 / 野火的记忆

夏がめぐってくると
ぼくはしゅんとならざるをえない

每逢夏天转了回来
我就无法不陷入沉沉心痛

——《八月》

